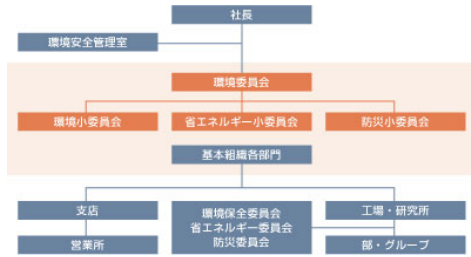


環境安全管理体制



タケダでは、「環境に関する基本原則」に基づいた事業活動を推進するにあたり、各部門の環境責任者で構成される「環境委員会」を設置しています。「環境委員会」では、全社的な環境保全、省エネルギー、防災を含めた環境に関する問題を審議し、毎年の環境方針等を決定します。「環境委員会」の下には、「環境」「省エネルギー」「防災」の3つの小委員会を設置し、実務責任者レベルで、それぞれの事項に関する施策を推進、実施しています。さらに、工場や研究所には環境担当責任者を置き、中期計画や年度計画に基づいた具体的な活動を推進しています。

2007年度 タケダの環境に関する主な方針と実績

テーマ	方針	実績	評価
環境問題への基本的取り組みの推進	違法体制を推進するとともに社内基準値を遵守する。	法規制より厳しい社内基準値を管理値とし、定期的な環境測定を通して違法体制を維持した。	○
省エネルギー・温室効果ガス排出量削減	2010年度までにCO2排出量を2005年度比で40%削減する。	2007年度のCO2排出量は340千トンで、2005年度比5%削減した。	○
廃棄物の削減	廃棄物最終処分量を2004年度の最終処分量を基準として、2010年度までに全社で30%削減する。	2007年度の最終処分量は195トンで、2004年度比35%削減、2010年度目標を前倒して達成した。	◎
	外部処理場における廃棄物の適正処理を確認する。	廃棄物処理委託業者（19社）を視察し、適正処理が行われていることを確認した。	○
化学物質の適正管理と環境への排出削減	化学物質の環境への排出量の削減に努める。	PRTR対象物質の排出量は47トンで前年度比11%削減した。	○
教育・啓発活動の推進	環境問題について、全従業員の啓発活動を行う。	会報、ポスター掲示や社内イントラネットを活用し、従業員の意識向上を図った。	○
	環境に関わるコンプライアンス教育を推進する。	事故事例の周知、法規制遵守状況確認表の活用などで、全従業員を対象にコンプライアンス教育を実施した。	○
地域社会への貢献	行政、住民とのコミュニケーションを図り、地域の生活環境の維持向上に努める。	工場周辺の住民の方に「感覚モニター員」としての情報提供を依頼し、問題のないことを確認した。また、環境に関する苦情は0件であった。	○

集計範囲：大阪工場、光工場、筑波地区研究部門（CO2排出量は本社、東京本社含む）

2007年度 タケダの防災に関する主な方針と実績

テーマ	方針	実績	評価
防災管理の強化充実	非常作業マニュアル、防災マニュアルを活用し、事故や災害を防止する。	非常作業マニュアル、防災マニュアルの見直し、必要に応じた改正および新規制定を行い、事故防止に努めた。	○
	設備・配管の定期的な点検および保守、老朽化設備の計画的更新、および休止設備の安全確保を図る。	老朽化設備および休止設備を点検し、計画的な更新、安全対策を実施した。	○
防災対策の強化	静電気対策の徹底と安全確認により災害を防止する。	機器類の接地抵抗、漏洩抵抗および帯電電位を定期的に測定して対策の有効性を確認し、事故防止に努めた。	○
	可燃性物質の危険性排除対策と安全確認を徹底する。	窒素シール設備機器等の定期点検で、対策の有効性を確認し、事故防止の徹底を図った。	○
	重要設備、建物の地震対策を強化し、地震による被害の拡大防止に努める。	転倒落下防止対策を徹底するとともに、重要設備について耐震安全性評価を実施した。	○
防災教育の充実	事業所、製造現場の特性を生かした防災教育・訓練により防災技術・手法の習熟を図り、計画的に伝承する。	非常作業マニュアル、防災マニュアルを用いた教育・訓練を計画的に実施し、防災技術の伝承を図った。	○
	協力会社等の防災教育の徹底を指導する。	関連業者に対する安全防災教育を徹底し、事故災害の発生防止に努めた。	○